

チェルノブイリ支援のために、 募金にご協力をお願いします！

注文番号 **008**

Aコース(3,000円/口)

注文番号 **009**

Bコース(5,000円/口)

1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故から30年以上が経ちました。事故当時の子どもたちは現在、母や父となり、目にみえない放射能の恐怖や不安と闘いながら、我が子の健康や将来を案じながら生活しています。被災者にとって、チェルノブイリは過去の出来事ではなく、今日、明日、そして未来へと続く問題です。

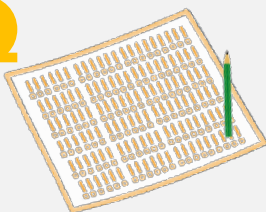
年に一度の
募金のお願
い
です



グリーンコープでは、毎年春に組合員にチェルノブイリ支援のための募金呼びかけを行っており、今年で24年目を迎えます。わたしたちの取り組みは、チェルノブイリ被災者の方々にとって大きな支えになっています。また、その経験を活かして、東日本大震災後の原発事故による被災者支援にも取り組んでいます。

♡ 募金方法はとっても簡単です。あなたの支援を待っています。 ♡

1



共同購入申込書の「008」または「009」の欄に口数を記入します。

2



お申込みいただいた募金がその他の商品代金と一緒に口座から引き落とされます。

3



NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワークを通じて、被災者支援活動に役立てられます。

※GCWeb登録の方は、ウェブでも注文できます。

あなたの募金が、チェルノブイリ被災者の笑顔につながります。



よろしく
お願いします！

申込期間：4月15日～4月27日

5号もしくは6号の共同購入申込書（表面の左端）にご希望のコース番号と口数をご記入ください。
G C W e b登録の方は、ウェブでも注文できます。

注文番号 008 | Aコース(3,000円/口)

注文番号 009 | Bコース(5,000円/口)

※お申込み頂いた支援募金は、ご注文商品と同じ口座からの自動引落しとなります。また支援募金にご協力頂いた方には、チェルノブイリ医療支援ネットワークよりニュースレターを年4回お届けします。ニュースレターをご不要の方は、お手数ですが、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

わたしたちの支援募金は
このように役立てられます

医師を育てる

患者を救う

機材を届ける

患者の不安を
取り除く

チェルノブイリ医療支援ネットワーク（CMN）を通じて、原発事故の被災地域での医療活動（専門家の旅費や医療機材の購入費）などにあてられます。なお今年度は、医療スタッフの巡回検診などの際に活躍しているワゴン車「雪だるま2号」の老朽化に伴う「雪だるま3号」の購入資金や、維持管理費の一部としてもこの支援募金が活用される予定です。

CMNは、汚染地域に指定されているベラルーシ共和国ブレスト州で1997年より現地スタッフとともに甲状腺検査に取り組んでいます。また東日本大震災後の原発事故による被災者支援、被災地や被災者の現状を伝える情報発信にも取り組んでいます。目にみえない放射能の影響を調べることや、健康に不安を抱える被災者のケアは、長期的な取り組みが必要となります。あなたもチェルノブイリ、フクシマを支える一人になっていただけませんか？

チェルノブイリ、そして福島への支援を！



▲チェルノブイリ原発事故の被災地ベラルーシでの甲状腺検査の精度を上げるための人材育成やノウハウ支援、また医療機材・消耗器具などのハード面の整備を行っています。
移動検診車「雪だるま2号」は2005年から走行し、現在も活躍中。被災者支援に欠かせない、縁の下の力持ちの役割を果たしています。
（※写真は国際赤十字の移動検診車です）
また、チェルノブイリの経験や専門家とのネットワークを福島での支援に活かすべく、獨協医科大学の木村真三先生らと協力し、現地調査や被災者のケアに取り組んでいます。



◀ 昨年は、チェルノブイリ原発事故後に甲状腺の摘出手術を受けた心理カウンセラー、リュドミラ・ウクラインカさん（写真）を日本へお招きしての全国講演会&チャリティコンサート（5月）、日本医科大学付属病院の渡曾泰彦臨床検査技師による活動報告会（8月）を開催し、被災地の現状についてお伝えしました。
今年も、福島でのベラルーシの医療専門家による来日講演会を予定しています。

このチラシに関するお問い合わせ先：チェルノブイリ医療支援ネットワーク（CMN）

TEL/FAX: 092-260-3989 E-mail: jim@cher9.org

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F